

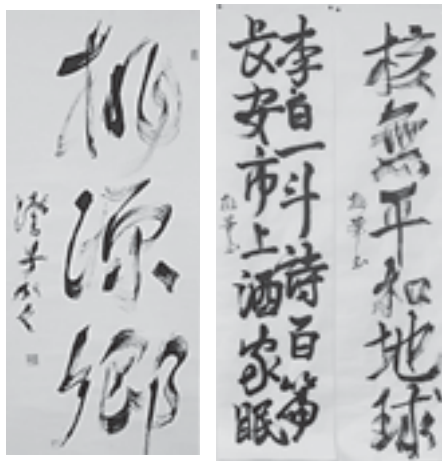
# 生きがい

## 阿部 澄子さん(90歳)



生きがいを持つことは大きな幸せです。自分が好きなことややりたいこと、幸福感を得られるものを生きがいといいます。生きがいは夢や目標であったり、人の役に立ってることであったり、自分を活かせることや充実感を感じられることなどさまざまです。本市の各公民館には、多種多様な生涯学習の機会が設けられています。

今回は南公民館主催のみなみ大学書道クラブで21年間活動されている阿部さんに、一生懸命に取り組んでいることについて伺いました。



今年の南公民館まつりに出展した作品



阿部さんの作品を持って書道クラブの友人と記念撮影

短歌

北満の赤き夕日よ 今いづこ

八十路越せども脳裏をよぎる

しわ深くせめて髪染め大学の

講義楽しや支度する夜

亡き父の年を越せども書く文字は

力みなぎる筆に及はず

生涯で楽しき時期は書道部の

よき師と友との十六ヶ年

酒一斗命も要らぬ妻要らぬ

豪語の夫はよみへと急ぐ

又となき師に巡りあい水を得し

雑魚の如くに心おどれり

阿部さんは、この作品を平成19年10月1日、20年4月1日発行の「満天」に寄稿されています。

Q: 21年間南公民館の書道クラブで活動を続けられるのは、どういった思いがあるからですか？

わたしは大正8年に北海道で生まれ、3歳のときに、三本木町(現在の十和田市)に来ました。勉強することが大好きで、尋常高等小学校に通っていたころから先生になりたいと思っていました。常に勉強をしたいという気持ちはありましたが、経済的に厳しく、生活が大変でした。15歳から青森市で3年間洋裁の勉強をしました。その後、24歳のときに満州で夫と結婚し、28歳のときに帰国しました。

69歳のときに、友達のすすめもあり、南公民館主催のみなみ大学書道クラブに入部しました。10年間無欠席で通い、南公民館から皆勤賞の賞状をもらいました。その後、ひざの関節痛もあり、欠席することもありましたが、元気に今年で21年目を迎えました。

これまで書道クラブで活動することができたのは、太田卓先生が親切で、南公民館の館長や事務のかたがた、書道クラブの友人の支えがあったからだと感じています。

Q: 書道の魅力や長生きをする秘訣、今後の目標についても教えてください。

わたしの雅号は「桃華」といいます。「桃源郷」という言葉が好きで、太田先生のすすめで、華やかさを持たせるために「桃華」としました。博愛を持って、人と接したいと考え、首印は博愛としました。書道をしていると心が穏やかになり、精神修養になります。書道の勉強になればと思いい、新聞を隔々まで読むことを心がけています。

わたしはいろいろなものに興味を持つように心がけ、短歌や読書も趣味です。格言やことわざを勉強し、中国の歴史や世界遺産に関する本を読んでいます。音楽では男性の声が好きです。世界の三大テノール歌手であるイタリヤ出身のルチアーノ・パヴァロッティやスペイン出身のプラシド・ドミンゴやホセ・カレーラス、日本人では秋川雅史の歌をよく聞きます。

長生きする秘訣は、自分の好きな事を一生懸命やり、緑黄色野菜を食べるなど食事に気を使うことだと思います。今後南公民館での友達を大切に、書道クラブに通いたいと思います。

